

九州大学

人文科学研究院 Kyushu University, Graduate School of Humanities  
人文学国際研究センター International Research Center for the Humanities

# 東洋染織品の移動と変容

九州大学人文学国際研究センター 2020～2021年公開講座  
主催: 九州大学人文学国際研究センター 協力: 京都国立博物館

Zoom Webinarによる70分のオンライン講座です。発表の後に質疑応答時間があります。  
発表は全て日本語で行われます。登録方法については本紙下部をご覧ください。

第1回 2021年1月16日(土) 10:00-11:10 日本標準時間 (発表50分)

## 仏教染織品の移動と変容—袈裟と打敷—

講師: 山川暁 京都国立博物館企画室長、工芸室長、染織担当

第2回 2021年1月23日(土) 10:00-11:10 日本標準時間 (発表各25分)

## 茶の湯における染織品の移動と変容

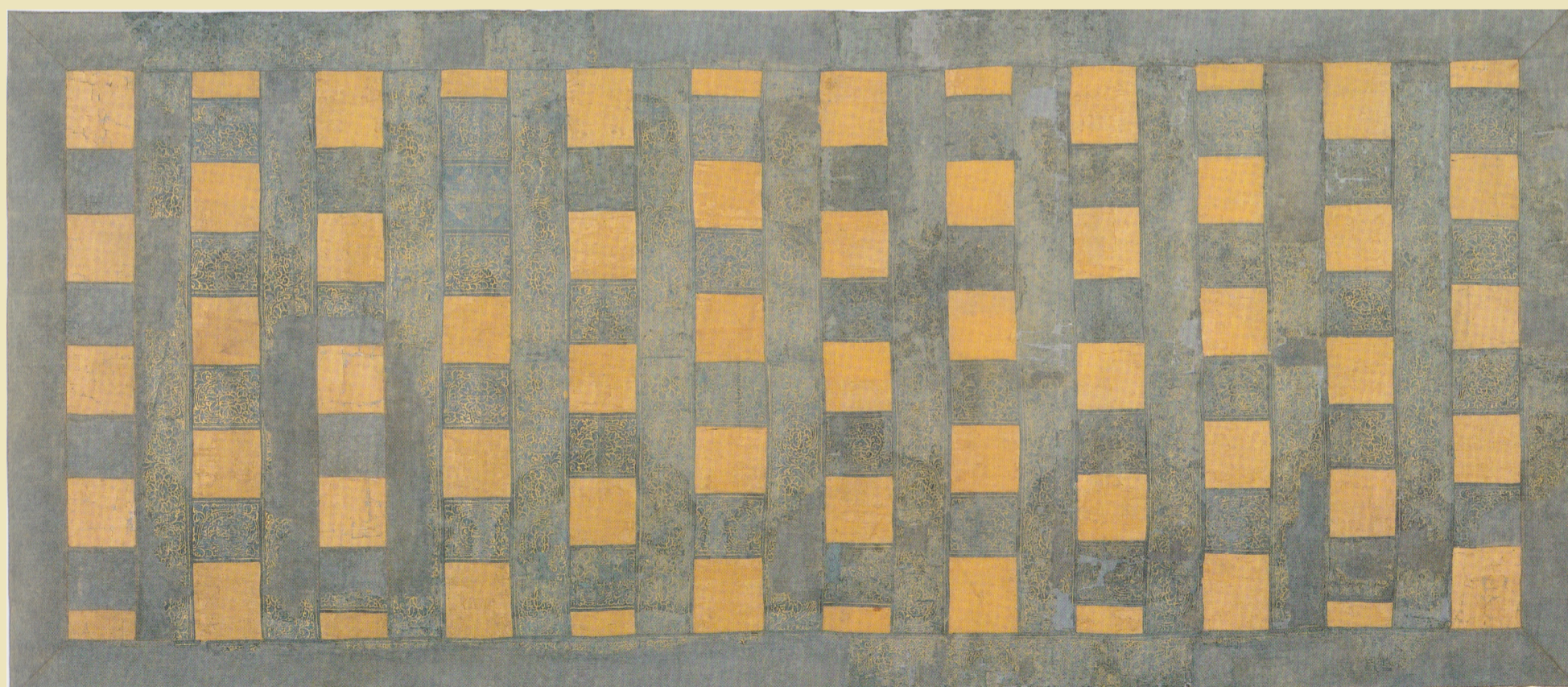
講師: 佐藤留実 五島美術館 主任学芸員

## 金襴を中心とした日本伝世古渡裂の歴史

講師: 桑原有寿子 九州国立博物館 アソシエイト・フェロー

参加希望の方は下記リンクまたはQRコードからご登録ください。

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_4vj2CTuIRPiKqi6PITglGQ](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_4vj2CTuIRPiKqi6PITglGQ)



重要文化財 牡丹唐草羯磨文様袈裟(応夢衣) 14世紀 京都国立博物館



## 「仏教染織品の移動と変容—袈裟と打敷—」

山川 暁 京都国立博物館 企画室長 工芸室長 染織担当

仏教僧がいわば制服として着用する袈裟は、師から弟子へ、仏法相伝の証とされてきた。そのため、日本には留学僧が中国の師から授けられたと伝わる袈裟が、現在も寺宝として多数伝来している。これは染織品が海を越えて移動したにもかかわらず、その本義が保たれている染織品と言えるだろう。一方、打敷とは仏前の卓を覆うテーブルクロスであるが、これには、死者やその家族が愛用した衣服を仕立て替えて用いるという伝統が日本にはある。打敷は、日本国内に存在し続けているにもかかわらず、俗なる世界から聖なる世界へ転生を遂げた染織品と定義できよう。本発表では、袈裟と打敷を通じて、仏教染織品の中にある越境という概念を考えてみたい。



日本および東洋染織史を研究。徳川美術館学芸員を経て、2001年に京都国立博物館の染織担当研究員となり、現在企画室長兼工芸室長。京都大学大学院人間・環境学研究科客員教授。著書に『中近世染織品の基礎的研究』（2015年、中央公論美術出版）などがある。

## 「茶の湯における染織品の移動と変容」

佐藤 留実 五島美術館 主任学芸員

日本の伝統文化である茶の湯。それは、特別な茶室や会席料理、厳選された茶道具などによって成立する、ある種の総合芸術である。その茶席で鑑賞されてきた染織品に目を向ければ、掛物の表装裂や茶入・茶碗の仕覆（袋）の存在があげられる。特に古くから有名な名物の茶道具には、中国、インド、ペルシャなどの舶来の織物が付属していることが多く見られ、国際的な様相を呈している。そのような取り合わせの伝来状況も、日本文化の一部といえよう。本講座では、「名物裂」など、茶の湯における鑑賞用の舶来染織を主に取り上げる。茶席を彩ってきたそれら貿易染織の需要や、江戸時代における「名物裂」の影響例なども紹介する。



五島美術館主任学芸員。専門は染織工芸史。特に日本に輸入された外来染織における需要と影響に焦点をあて調査・研究をしている。企画した主な展覧会は、特別展「名物裂」（2001年）、同「鎌倉円覚寺の名宝」（2006年）、同「古渡り更紗」（2008年）など。近年の執筆は「開山筆筒と緞子縫合編繡大袈裟」（『國華』1494号2020年）、『名物裂の研究』（共著2018年国書刊行会）など。

## 「金襴を中心とした日本伝世古渡裂の歴史」

桑原 有寿子 九州国立博物館 アソシエイト・フェロー

茶道具の彩りに好まれる金襴の歴史を紐解く。名物裂と呼ばれる織物には、金糸を織り込んだいわゆる金襴が多く用いられる。金糸を用いた染織品のうち、現存する中国の遺例からは、古くは金糸を織物の表面に繡い留める刺繡と、緯糸として金糸を織り込む綴織のいずれかが主な加飾技法であったことが知られる。しかしながら唐代以降、織物の緯糸に添わせるように金糸を織り込む新しい織物、金襴が作られるようになった。この講義では、金襴の誕生が染織史に与えた影響と、その発展の過程を辿る。



九州国立博物館アソシエイト・フェロー（染織）。関西学院大学文学部卒業、関西学院大学大学院文学研究科修了。関西学院大学博物館開設準備室および関西学院大学博物館の学芸アシスタント、宗教法人平等院の学芸員を経て、2018年より現職。博士（芸術学）。